

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2393000043
法人名	医療法人寿光会
事業所名	医療法人寿光会グループホーム上豊田
訪問調査日	平成 20 年 11 月 27 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 12 日
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月30日

【評価実施概要】

事業所番号	2393000043
法人名	医療法人 寿光会
事業所名	医療法人寿光会 グループホーム上豊田
所在地	愛知県豊田市若草町1丁目7番地21 (電話) 0565-41-5627

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市市中村区松原町一丁目24番地COMBi本陣 N203号室		
訪問調査日	平成20年11月27日	評価確定日	平成20年12月12日

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 9 人・非常勤 6 人・常勤換算 11 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建て	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	200,000 円	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	64 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤岡記念病院 寿光会中央病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、名鉄豊田線、上豊田駅より徒歩10分ほどの閑静な高台の新興住宅地の一角にあり、近所にはまだ多くの山林や牧草地などの自然が残っている。ホーム建物は、広い敷地の中にゆったりと建っている平屋造りである。ホーム内は、木目を活かした内装となっており、落ち着いた雰囲気は保たれている。運営母体は、医療法人寿光会中央病院であり、内科、歯科の医師の往診は月に2~3回、訪問看護師は週1回来所して、利用者の健康管理を支援している。このことは、利用者や家族の大きな安心感を得ている。開設1年目にも関わらず、利用者へ配慮にいろいろの工夫がなされている。2年目に入り、利用者本位のサービスの向上や地域住民との交流などについて検討中である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホームは、平成19年12月開設である。外部評価は、今回が初めてである。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の仕方には、いろいろの方法が考えられるが、今回は初めての自己評価であり、自己評価の意義等の理解を深めるため職員会議を行い、評価の趣旨等を説明した上で、各項目についての意見交換を行い、管理者が取りまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は、3か月に1回の定例開催である。出席者としては、家族代表2家族、利用者代表2名、地元民生委員1名、地域医療センター職員1名、事業所より管理者、介護支援専門員が参加している。議題としては、「行事報告」、「利用者の状況」、「施設の方針」などを、取り上げている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の家族の多くは近隣地区に在住しており、ホームには毎月定例的に訪問されている。こうした家族来所時を活用して家族から意見、要望、不満、苦情、相談を受けている。職員には情報日誌や会議等で知らせ、全員が情報を共有把握し日々のケアに活かしている。また、玄関に意見箱を設置してある。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設後1年と日が浅く、この1年は地域の年間行事の確認や地域資源・情報の把握に努めてきた。そうした中、出来ることから始めようということで地域主催のお祭りなどに職員・利用者が共に参加している。また、地元中学生の社会学習体験や地域ボランティアによるレクリエーション活動などの受け入れも行っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームでは、「心に虹を」、「共にその人らしさあふれるカラーを作っていきます」を合言葉として、利用者が職員と力を合わせて、毎日楽しい豊かな暮らしを築き上げていくよう目指している。	○	今後に向けたホームの理念として、運営法人の理念に見られるような、「地域への貢献」、「地域との連携」といった、地域密着型のグループホームとしての方向性にも留意されたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は、各ユニット毎に掲示して、職員への意識づけがなされ、利用者の立場に立っての支援が出来るよう努力している。管理者は、朝礼や毎月の定例会議で、こうした運営理念の徹底を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩等の外出時には近隣の住民の方と挨拶を交わし徐々に顔馴染みの関係ができてつある。また、地域主催の行事(お祭りなど)に利用者と一緒に参加している。楽器演奏などの地域ボランティアを受け入れている。又中学生を社会学習体験の場として受け入れている。	○	開設2年目に入ったので、地区の自治会や老人会への加入を検討されたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての自己評価であり、職員会議で趣旨の説明を行った。「評価」の意義を理解した上で、これを介護の仕事を見つめ直す機会として捉え、職員による意見の交換を行い、ホーム全体の向上を目指している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、3か月に1回開催され、豊田市では地域包括センターを地域医療センターと言い、そこの職員、民生委員、利用者家族代表、利用者代表、ホーム管理者、職員など参加している。ホーム側より、利用者の状況、行事などが報告されている。これに対する家族、外部の方達よりの質問・意見・要望等を聞き、より良いホーム造りに向け取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域医療センター職員が運営推進会議に出席し、常時連携、意見交換の場としている。市の介護相談員の毎月来訪もあり、日常的に意見交換を行う機会がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等の来訪時に利用者の生活状況、健康状態を報告、来訪のない家族には、請求書送付時に近況報告をしている。健康、医療面で変化が見られた場合は、その都度、詳細に家族に報告している。現在、「ホーム便り」のような情報紙発刊を検討中である。	○	「ホーム行事」へ多くの家族が参加できる工夫や「ホーム便り」の発刊などにより家族同士の交流を深めるような態勢づくりを図りたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対しての意見箱をホーム玄関ホールに、設置している。家族の面会、来訪時などを捉えて、意見、要望、不満、苦情、相談などを職員、管理者が受けている。職員はこうした情報を、申し送りや会議で把握し日々の支援に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在、2ユニットの職員体制は開設1年目であり、利用者の状況も流動的なため、馴染みの関係を強化したいこともあり固定している。今後の職員異動に備えて、行事やレクリエーション等での機会を活用し、職員全員が利用者との馴染みの関係を築くように、努力している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員研修については実施している。今後は、経験年数等を基準にした、内部研修や外部研修の体制を整備する予定である。また、個々の職員は介護資格取得等にも前向きである。資格取得者には手当を付けて対応している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の病院、介護関係事業者との親睦会に参加している。こうした機会を通じて、ホームの抱える共通課題や問題点等の話し合いも行われており、サービスの質の向上に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心して入居できるように、体験入居の機会等を設け、職員や他の利用者との馴染みの関係づくりに留意している。入居に際しては、利用者や家族との話し合いの機会を多く持ち、利用者に関する多くの情報の吸収に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の尊厳を大切に、本人の性格や生活歴などを理解したうえで、常に人生の先輩として接している。そうした関係を基盤に、職員と利用者は、理念にもある「共にその人らしさあふれるカラーを作っていくましよう」を目指し、日々の生活の中で支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の情報は「業務日誌」に詳細に記入して、常時職員全体で共有し、要望の実現に努めている。自己主張の出来ない方への対応についても職員間で話し合いを行い、どうしたら良いかを検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族、介護計画作成担当者、管理者及び医師等の意見を取り入れて、定期的に検討し、職員会議等での意見交換をもとにして、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1度見直しするだけでなく、状況に応じて、利用者、家族、管理者、介護計画作成者などで話し合い、医師等の意見も聞いて現状に即した介護計画を作成している。	○	介護計画の正確な実践のためには、判り易い記載方法の検討、管理者の事後チェック、担当者の事後管理などは重要である。こうした事務管理面での充実に向け、引き続き努力されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業主体が地元の総合病院であり、医療については総合的に支援がなされている。提携医の送迎は職員がしており、眼科の受診については、家族の都合で職員がすることもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業主体が医療法人であるが、「かかりつけ医」の選択は利用者・家族の意向により決めている。提携医の定期的な往診や職員による提携病院通院の支援などもあり、殆どの利用者が、提携医の診察を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期の対応については、入居前に利用者、家族の意思確認をしている。現状の職員数及び職員の介護経験ではホームでの看取りまでは対応が難しいと判断している。事業法人としては、傘下のグループホーム、老人保健施設、病院を一体として考えており、重度化等の場合には提携病院への入院等の措置をとっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳の維持に留意して、声掛け、誘導の対応をしている。個人記録などは事務所で管理、職員には守秘義務の遵守を指導するなど、個人情報保護の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「利用者本位」を大切にして、日々利用者の気持ちを尊重し対応をしている。やれる事・やれない事を把握しながら、生活のリズム・体調に合わせての介護など、利用者の希望にそった支援を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、食材の手配は食材宅配業者を利用し、調理はホームで行っている。食事の準備や配膳、後片付けなどは、利用者の能力を活かしながら、職員と一緒に行ってもらっている。職員はこうした作業や食事などを見守りつつ、利用者を支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については、基本的に2～3日おきに行っている。利用者の状態に合わせて、一人ひとりゆったり入浴を楽しんでもらえるように、主に午前中に入っている。時にはゆず湯・菖蒲湯等のイベント湯を実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員でレク委員がおり、一人ひとりの希望や能力等に配慮したレクリエーション活動を、季節ごとや月ごとに用意し実践している。毎日の生活では、塗り絵・折り紙・貼り絵・草花の手入れなどは日課としている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の気持ち、生活のリズム、体調、天気に合わせて、その日その日の予定を立て、散歩・喫茶店・外食・買い物などの外出支援をしている。	○	外出支援は「介護」の中での重要な業務であるが人手を一番要する業務でもある。現状の職員体制では、希望する時間での個別対応の外出支援は困難であると思われる。ボランティアの受け入れなども含め可能な対応を検討されたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵は施錠していない。ユニット間の行き来は中庭を通過して、自由にしている。各居室に鍵は設置していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを作成しホーム独自の避難訓練は実施している。然し、消防署や地域住民と連携した避難訓練はまだ行っていない。近々、消防署、近隣住民との連携を密にして、合同での避難訓練を予定している。	○	災害対策や避難訓練は、ホーム独自のものだけではなく、住民と連携した対策を検討されたい。また、災害備蓄についても「質・量」とも充分とはいえない状態であるので計画的な対応を図られたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の栄養摂取量、水分補給量、排泄状態を「生活記録」に記入して、管理している。毎日のバイタルチェックや定期的な体重測定の結果により、摂取量の調整に配慮している。水分については、朝ペットボトルを渡して、把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭に面して、全面ガラスになっており、室内の採光、換気は充分である。中庭には植木鉢が置いてあり、四季それぞれの花を咲かせている。ボランティアの方が定期的に、生花を届けてくれている。食堂の隅に畳を敷いてテレビを置いてある。利用者は畳に座ってテレビを見ている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居室には、大型のクローゼットと洗面台、鏡が設置しており、利用者はそこで洗顔、歯磨きをしている。テレビや飾棚、仏壇を持っている利用者もいる。清潔感のある居室である。		